

エジプト政府による西日本豪雨被災者エジプト招待プログラムに参加して

広島県立広島高等学校 2年 増本雄大

初めに、この度、エジプト・アラブ共和国アブドゥルファッターハ・エルシーシ大統領をはじめとする、エジプト・日本両国の多くの方々のおかげで貴重な体験ができたことに感謝申し上げます。

さて、今回このプログラムに参加して、初めてのアラビア語圏、初めてのアフリカ、初めてのイスラム教国家を訪れたため、とても貴重で新鮮な体験をたくさんすることができました。特に私の印象に残ったことを2点挙げようと思います。

一つ目は、遺跡や歴史的な品々と私たち観光客の距離の近さです。日本でのガラスケースやロープなどに仕切られたものに比べ、ピラミッドをはじめとする遺跡群は、日本にあるものよりはるかに古い時代のもので、大変貴重であるにもかかわらず、手で触れることができ、五感で4,000年以上前の歴史を感じることができました。



二つ目は、エジプトの方々に親日家が多いということです。駐日エジプト大使のアイマン・アリ・カーメルさんが、江戸末期の遣欧使節団がエジプトと日本の友好の始まりであると言われ、関係の長さに驚きました。実際、それぞれの観光地で出会った多くの人々が日本のことをよくご存じで、積極的に話しかけてくださり、親日国家ということに納得しました。現在、日本との協力で世界最大となる大エジプト博物館が建造中とのことで、完成したらまたエジプトを訪れたいと思います。

また、エジプト国内での体験に加え、他の被災した高校生と話をすることができたのも学校ではなかなかできないことで、よかったですと思います。

今年の夏失った多くのものの代わりに、素敵なものを手に入れることができ、とても救われた気持ちになりました。最後に、お世話になった多くの方々への感謝と、これからエジプトの魅力を周囲につたえることでエジプトに貢献するという決意を込めて、初めて覚えたアラビア語でこの報告書を終わりたいと思います。

شكرا